

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。

めざせ、均等待遇

なくそう差別！

ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

平和について考える

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙 「みらい」
NO. 3767
17年6月30日(金)
・Fax 095-828-1953

おはようございます。
梅雨らしい日が続き、恵みの雨と言いたいところですが、激しく降る日もあり、私たちの職場では非常にやり辛い日々となっています。
雨からの郵便物保護、引っ付き等による誤配、視界不良やぬれた路面による交通事故、晴れた日に比べると、すこいリスク増の仕事が強いられます。しかも通気性の悪いカッパを着て、脱水症状とたたかしながらの作業。その上、コストコントロールと言つ名の超勤の削減と、かめーるの販売や、お中元等の営業活動も雨だからといって手を抜く事は出来ません。繁忙期も迫っている中ではありますが、みなさん気を引き締め乗り切ってくださいませ。

さて梅雨が明けるといよいよ夏本番、長崎で夏といえは忘れられないのが、八月九日の原爆投下「原爆の日」です。
米軍が原爆を投下して72年目になりますが、皆さんの心の中から少し薄らいではないでしょうか？
昭和20年8月9日、午前11時2分のことです。
長崎に投下された原子爆弾はファット・マンと呼ばれたブルトニウム爆弾で、TNT火薬210000トン分の威力とされます。これほどの爆弾を長崎に投下したのは、ボツクス・カーと言つB29(米軍の戦略爆撃機)です。



表面温度並みの8000度に達しました。
この火球のエネルギーはその大半が爆風となって放射能と共に長崎市を壊滅します。
長崎は谷間の地形が原爆の被害の拡大を防いだと言われますが、それでもこの原爆で数ヶ月以内に7万人が亡くなり、その後亡くなった方を入れると約15万人の命を奪つたと言われます。当時は放射能障害を知らない方がほとんどで、放射能の残る焼け跡などを歩いたりした為に命を落とした方も大勢いるようでした。



私は被爆二世ですが、親の時代の事と、済ますことは出来ません。現代においても核

先日、浦上天主堂の近くを通つたとき、「そつえば遠くからしか見たことがない」と思いバイクを降りて近づいてみました。爆心地から東北へ約500メートルの小高い丘に建つ浦上天主堂は原爆の被害を直接受けた建造物。原子爆弾の炸裂によりほとんどが破壊され崩れ落ちました。重量約50トンもある鐘楼もその一つで、そのままの状態では被爆の跡形が残されています。



同様に被爆します。チェルノブイリや福島教訓があるにもかかわらず原爆再稼働が行なわれています。

頭部を吹き飛ばされた石像など当時の生々しい状態を肌で感じます。
この浦上天主堂から大橋方面に向けて、サントス通りがあります。その途中に「永井隆記念館」があります。
永井隆博士は、医学博士で



長崎はいたる所で、原爆の悲惨さ、戦争の無意味さ、平和の尊さを教えてくれる街です。
皆さんもたまには散歩がてらに、そつう場所を訪れてはいかがでしょうか。平和について考え、また後世に語り継ぐ為にも。

博士は、原爆、人間、愛平和に関する多くの著書を執筆されています。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-山本, 2集-向井, 3集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 東-松岡, 他支部・分会の役員へ。